

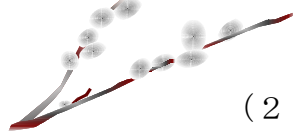
説教要旨 「あなたにとってのイエス」

ルカによる福音書9章18～27節

人々はイエス様のことを『洗礼者ヨハネだ』、『エリヤだ』、『だれか昔の預言者が生き返ったのだ』などと、様々に噂しています。イエス様はそのことを知った上で、弟子たちに問いかけます。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか」(20節)。私たちがイエス様から「あなたがたはわたしを何者だと言うのか」と問われる時、「世間ではこう言われています」などという答えで逃げることはできません。他人がどう言っているかではなく、“わたし”はイエス様のことを何者だと言うのか、が問われているからです。ペトロは、弟子たちを代表して、弟子たち全体の答えとして、イエス様、あなたは「神からのメシアです」(20節)という信仰の告白をしました。弟子たちは、イエス様からの問いかけによって、“イエス様こそメシア(救い主)である”という信仰告白へと導かれたのです。

しかし、このペトロの告白をうけてイエス様は、「このことをだれにも話さないように」(21節)と命じられました。「このこと」とは、イエス様が救い主であることです。そして続けて「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている」(22節)という、いわゆる受難の予告が語られます。イエス様がどのようにその救いを実現されるかを知らないままに、「イエス様こそ救い主です」と告白しても意味がありません。イエス様が救い主であるという告白を誰にも話すなと命じられたのは、その救い主が苦しみを受け、排斥されて殺されることによって実現することが伝わらないまま、ただ“メシア”という言葉だけが伝わっていくことを良しとはされなかったのです。

私たちは、イエス様が、多くの苦しみを受け、排斥され、殺されることによって救い主として歩まれたことを既に知らされています。私たちは、イエス様に従い、自分を捨て、自分の十字架を背負って歩むところでこそ、この救い主が私たちを愛していて下さり、私たちのために今もとりなし、祈っていて下さることを知ることができるのです。



(2019・2・10 説教者：稲垣真実)